

「サステナブル経営」の始動

創業 101 年目の節目となる年に、シチズングループは新たな「中期経営計画 2021」を開始しました。

グループ中期経営ビジョン「Innovation for the next ～時を感じ、未来に感動を～」のもと、事業を通じた新たな価値創造に挑戦します。その重点施策のひとつが、全グループでの「サステナブル経営」の推進です。

シチズングループは「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念を原点に 100 年にわたり事業を展開してきました。今後も、シチズングループが世界中の人たちから必要とされ「愛される企業」となるには、社会の変化に対応した製品・サービスの創出や、それ

らを生み出す調達や生産プロセスへの配慮、そして、根底を支える企業姿勢も含めて社会から受け入れられる必要があると考えています。単に良い製品・サービスを提供するだけでなく、人権や地球環境などの社会課題にも配慮した経営を通じ、ステークホルダーからの信頼を獲得しながら事業を拡大し、企業価値の向上を図ること、それがシチズングループの考える「サステナブル経営」です。私たちは市民に寄り添い「愛される企業」になる為に、事業を通じてSDGs等の社会課題の解決に寄与し、次の100年間も継続していく企業を目指します。

サステナブルプロダクツを通じた社会課題の解決

シチズングループの「サステナブル経営」は、2030 年を見据えたグローバルな社会課題であるSDGs 達成に貢献していくことが、将来の事業成長には不可欠であるという考えにもとづいています。「サステナブル経営」を通じて、シチズングループは、2030 年までにグループの各事業分野において、主要な社会課題に配慮したサステナブルプロダクツ^{*1}

を創出していきます。シチズングループの中核事業である時計事業と、第二の柱としての育成を目指す工作機械事業を皮切りに、段階的に全事業への展開を図ります。

^{*1} サステナブルプロダクツ…サステナブルファクトリーから生産される製品。

サステナブルプロダクツの事例

時計事業		工作機械事業	
背景	不確実性の高い現代においては、時代の変化に敏感に対応し、スピード感をもって新たな技術や製品を創出していくことが求められます。そのためにはパートナーシップを通じ、従来とは異なる視点を持つことで革新性を生み出すことが重要だと考えています。更に、現代においては、製品の価値のみならず、製品を作り出す過程における人権や労働問題、環境保全等に総合的に配慮した、サステナブルなものが求められています。	背景	少子化による人口減少や高齢化により、特殊技能を持つ継承者不足による事業継続の危機が深刻な問題となっています。それゆえ高度なものづくりを伝承する新たな方策が求められています。また、革新性の高い製品の創出のみならず、限りある資源の有効活用や廃棄物の削減等、環境保全を両立させることも、ものづくり企業の責任であると考えます。
事業ビジョン	時を通して新たな価値と体験を創造する	事業ビジョン	世界最先端の生産革新ソリューションを創造し「新・モノづくり企業」のポジションを確立する
シチズンの取り組み	多様化するユーザーが求める機能を独自にカスタマイズできるスマートウォッチを開発していきます。株式会社ヴェルトと共同開発のIoTプラットフォーム「Riiiver」では、時計に限らず、AIスピーカーや家電を含め、様々なデバイスを繋ぐことを可能とし、ユーザーそれぞれのライフスタイルをより便利にかつ快適に、面白いものへと変えていきます。シチズンでは、従前より製品の高付加価値化に取り組み、エコ・ドライブやシチズン エル等、環境や社会に配慮した製品を展開してきました。今後は更に高効率かつクリーンエネルギー源による次世代電力を搭載した、製品群を拡充していきます。シチズンのエシカルな時計を通じ、生産や資源消費に対する人々の意識を変え、社会課題解決に関わる機会を提供していきます。	シチズンの取り組み	工作機械事業では、特殊技能が必要な製造工程の自動化に挑戦していきます。従来の機械では難しいとされてきた高度な技術を機械化することによって、安定した品質の確保、生産性の向上に繋がります。これらの取り組みを通じて将来の労働者不足に起因する技能伝承問題の解決に寄与していきます。更に、シチズンの環境配慮技術を備えた製品群を拡充し、切削加工における残材の削減技術の開発や、加工と切りくずの細分化処理を同時に行う技術の搭載により、資源使用量の削減に貢献し生産効率の向上に寄与していきます。



コラム 環境や人権に配慮したエシカルウォッチ「シチズン エル」

シチズンを代表するレディスウォッチブランド「CITIZEN L (以下、シチズン エル)」は、2016 年より、世界初のエシカルをコンセプトとした腕時計として約50カ国で展開しています。

シチズンが誇る定期的な電池交換不要で廃棄電池を排出しない、光発電機能であるエコ・ドライブを搭載しているだけでなく、「シチズン エル」では、製品の生まれる背景にも配慮した、5つの「エシカルコミットメント^{*}」を掲げています。例えば、時計を身に着ける利用者はもちろん、製造プロセスにおいても、人体へ有害な成分を含有していないことを示す製品成分表や、材料調達から製造、廃棄やリサイクルに至るまで、時計のライフサイクルにおいて排出される温室効果ガスを試算 (CO₂ 換算) し、カーボンフットプリントとして表示・公開しています。

- 製品成分表の公開
- 取扱説明書のスリム化
- CO₂ 排出量の公開
- サステナブルな時計パッケージ
- DRCコンフリクト・フリーを宣言

更にはコンゴ民主共和国及びその周辺国において、問題となっている武装勢力の資金源となる違法に採掘された紛争鉱物を使用しないDRC コンフリクトフリー宣言をはじめとした各種宣言の下で、厳密に管理された生産体制から生み出された製品です。こうした「シチズン エル」の取り組みは、2018 年、環境負荷の低減に配慮した製品・サービスを表彰する第 1 回エコプロアワード (旧エコプロダクツ大賞) 奨励賞を受賞する等、社会から高く評価されました。

ものづくりに携わる企業の責任として、シチズンは「シチズン エル」のエシカルな製品や配慮を通して、消費者に気づいてもらうことも重要であると考えています。サステナブルなモノづくりに関わる情報を積極的に発信していくことで、消費者啓発や、最終的にはシチズンのサステナブルかつエシカルな製品を選択して頂くことを目指します。



^{*} エシカルコミットメントの詳細は、「シチズン エル」ブランド WEB サイトよりご確認ください。
<https://citizen.jp/l/special/disclosure/index.html>

2019 年 4 月には、ソーシャルキャンペーン「New TiMe, New Me」を開始し、「シチズン エル」の限定モデルの発売とともに、「始まりは小さな選択だとしても、世界をほんの少し変えられるかもしれない」というメッセージとともに、社会や環境に目を向け、できることから始めようと呼び掛けるイベントを実施しました。エシカルな製品をより多くの人に知ってもらうことを目的としたタッチ・アンド・トライや、時計を大切に長く使い続けてもらうためのメンテナンスの実施、SDGs に自分らしく取り組むきっかけを見つけるワークショップは、連日、常に会場内が賑わうイベントとなりました。更に、

シチズンの SDGs への取り組みやエシカルな製品の展示を通じ、来場者楽しんで頂きながらシチズンのサステナブルな取り組みについて知って頂くことができました。



サステナブルファクトリー構想

将来のサステナブルプロダクツの創出に取り組むにあたり、シチズングループではその製造プロセスにも配慮した「サステナブルファクトリー」というコンセプトを打ちだしました。従来からの環境配慮に加え、お取引先も含めたバリューチェーン全体における、コンプライアンスや人権、労働慣行、BCP[※]、生産性向上などにも、総合的に配慮した持続可能な生産施設を整備していくことを約束しています。

SDGs 達成等、持続可能な社会に積極的に貢献していく為の取り組みとしての構想を進めています。

※ BCP(事業継続計画)…大規模災害等による事業活動への影響に備え、製品やサービスの供給を継続、または早期復旧を可能とする為、必要な体制や役割、対応手順等の計画を平常時に定めること。

サステナブル経営の概念図



グループを通じたSDGsへの取り組み

シチズングループでは、グループ一丸となって「サステナブル経営」に取り組む為、「サステナブル委員会」を設置し、SDGs達成貢献への取り組みを推進していきます。

講演会の実施

「中期経営計画2021」で掲げた「サステナブル経営」のスタートにあたり、グループで、SDGsの推進を中心となって担う層を対象に、知識と意識付けのための講演会を開催しました。3回の講演会では、「SDGs」「ビジネスと人権」「持続可能な調達」をテーマに有識者をお招きし、事業を通じた社会課題解決

また、全従業員に向け、SDGs理解の促進を図り、サステナブル経営に一層の推進力をつけるため、勉強会や社内報を通じた従業員の啓発活動にも取り組んでいます。

やグローバルな視点での倫理的な取り組みについて学びました。更に、今後のグループ各社の具体的な施策に生かすため、人事や調達などの、各担当部門を対象とした人権やCSR調達などテーマごとの勉強会も実施しました。

社内報を通じた情報発信

毎月発行されるシチズングループの社内報「CITIZEN FUTURE」において、「SDGsを学ぼう!」を連載し、SDGsの社内浸透を図っています。まずは、SDGsの17のゴールの内容について学びながら、「誰ひとり取り残さない」世界実現のために一人ひとり何ができるのか、考えるきっかけを提供し、今後、事業に生かしていくことを目指しています。

